

# (独) 国立科学博物館ヒアリング資料

平成19年10月10日

文部科学省

生涯学習政策局社会教育課

# (1) 主要業務の概要

## 科学技術基本法(平成7年)・科学技術基本計画(平成18年閣議決定)

- ・科学技術の戦略的重点化の一つとして基礎研究の推進
- ・「社会・国民に支持される科学技術」をめざした、国民の科学リテラシーの醸成 等

## 生物多様性国家戦略(平成14年地球環境保全に関する関係閣僚会議決定)

- ・生態系や生物多様性の保全のため、生態学や分類学を中心とした基礎的研究の推進
- ・自然史系博物館の果たす役割の重要性 等

# 国立科学博物館

- ・モデル事業の開発や職員研修等、積極的な支援
- ・博物館情報ネットワークの構築

国内の科学系博物館

- ・アジアにおける中核的な役割
- ・共同研究、標本資料の貸借等、積極的な国際協力
- ・GBIFの日本ノードとしての役割

国外の科学系博物館研究機関等

### 標本資料の収集・保管事業

- ナショナルコレクションの構築 -

- ・地球、生命、科学技術等に関する標本資料の収集
- ・科学的再現性を担保する証拠として保管(現在の登録標本資料数 約358万点)
- ・他機関での活用のための電子情報化

### 調査・研究事業

- 総合的・分野横断的研究 -

- ・自然史・科学技術史に関する実証的な研究
- ・他分野にも資する新たな知見を創出する基礎的研究
- ・他機関ではできない、長期・安定的に実施すべき研究

- ・研究基盤の共有
- ・共同研究
- ・展示・学習支援活動等における連携

人類共通の財産である標本資料の将来への確実な継承

将来の世代



## 有機的に連携した一体的な展開



大学等研究機関

相互の独自性を活かした積極的な連携

学校等

### 展示・学習支援事業

- 国内最大規模の展示・学習支援活動 -

- ・人的・物的資源の積極的活用
- ・他館に資する先導的事業の開発・実施
- ・国民の科学リテラシー涵養に資する活動
- ・科学理解増進にかかる人材の養成



- ・生涯学習の機会の提供
- ・科学理解増進への貢献
- ・研究成果の社会への還元

一般利用者

## 様々な主体とつながりを持ち、社会に根ざした博物館活動を展開

### 【達成状況 ~平成18年度~】

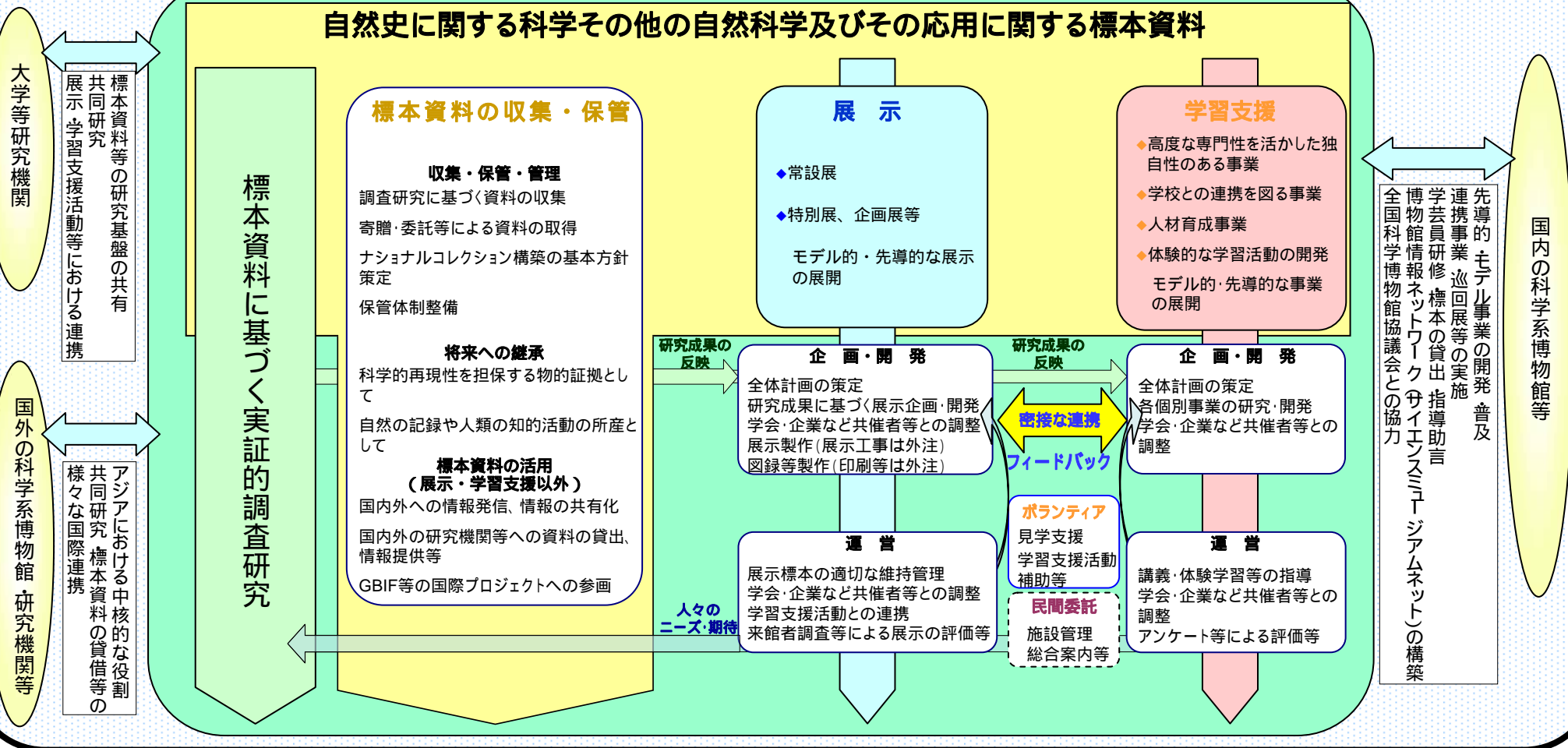
- ・標本資料: 22年度までの5年間で20万点の増 (18年度実績) 95,377点増(47.7%達成)
- ・入館者数: 22年度までの5年間で600万人 (18年度実績) 1,761,257人(29.4%達成)
- ・業務運営の効率化: 17年度と比較して5年間で一般管理費15%以上削減 (18年度実績) 7.68%削減 業務経費 5%以上削減 (18年度実績) 6.38%削減 等

以上のとおり、中期目標に掲げられた目標値について、達成に向けて努力している。

# 国立科学博物館における事務・事業

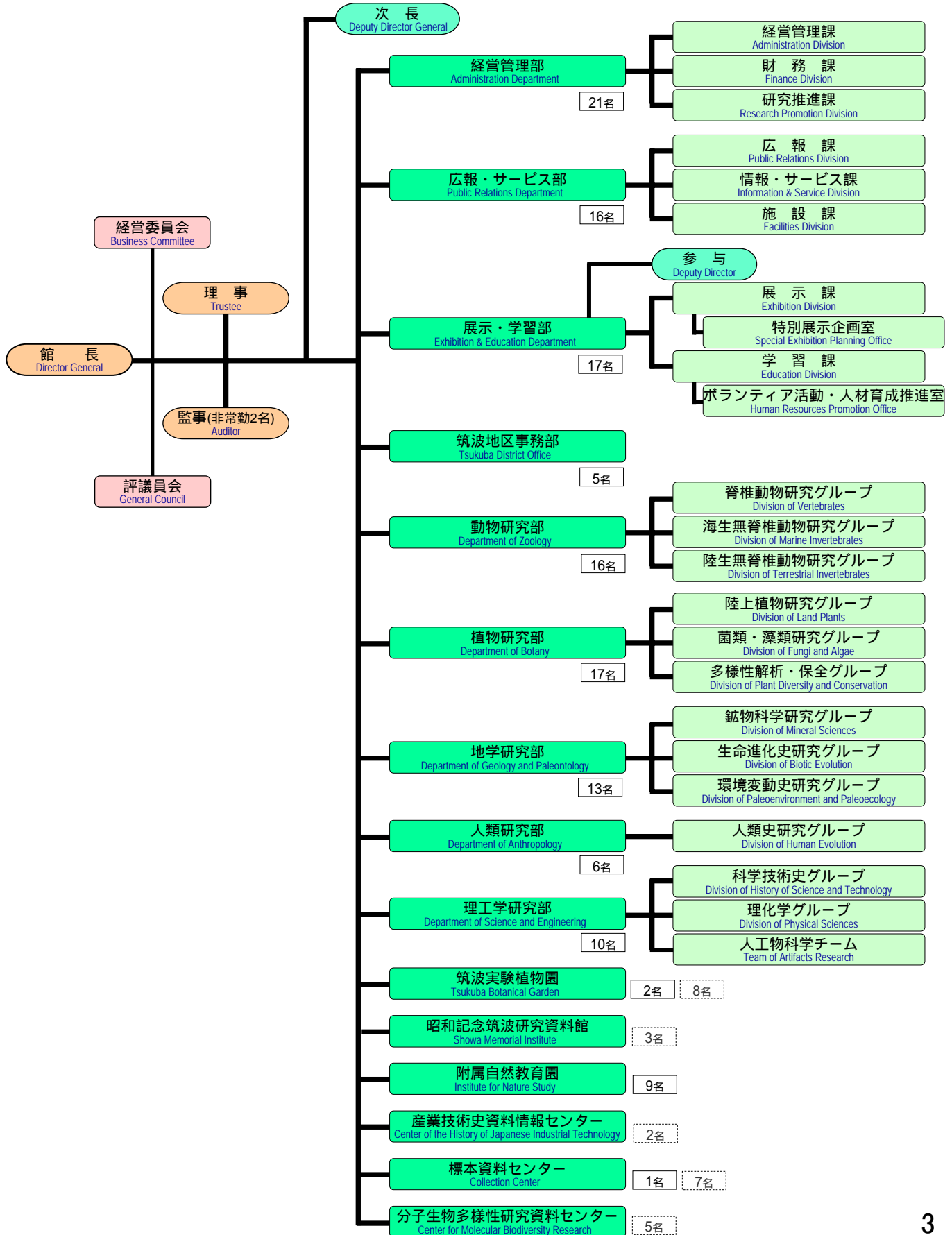
## 中核的研究機関・科学系博物館のナショナルセンターとしての機能

### 自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する標本資料



地球と生命の歴史、科学技術の歴史の解明    ナショナルコレクションの体系的な構築，継承    人々の科学リテラシーの向上に貢献

# ア- 全体の組織体系



## ア - 主な指標の実績値

### (1)独法全体の予算 (平成 19 年度)

3,506 百万円

### (2)独法全体の常勤職員数 (平成 19 年 4 月 1 日現在)

134 人

### (3)指標の実績値 (18 年度)

#### 科研費新規採択率

中期計画数値 科研費新規採択率が全国平均を上回る。

18 年度実績 44.7% (全国平均 23.5%)

#### 一人あたり平均論文数

中期計画数値 年間 2 本

18 年度実績 3.1 本 (自然科学関係論文計 231 本)

#### 全国の自然科学系博物館学芸員対象の専門研修状況

18 年度実績 21 名 (動物分野・地学分野開講)

#### 国際的な共同研究・交流の状況

国際シンポジウム 3 件

海外の博物館等からの視察・調査・意見交換 47 件(208 人)

国際深海掘削計画微古生物標本・資料センターとしての活動，地球規模生物多様性情報機構日本ノードとしての活動

### 標本資料増加数

自然史及び科学技術史に関するコレクションの構築と適切な保管

中期目標数値 平成 18～22 年度の 5 年間で 20 万点の増

18 年度実績 95,377 点を登録

18 年度末の登録標本数は 3,580,991 点

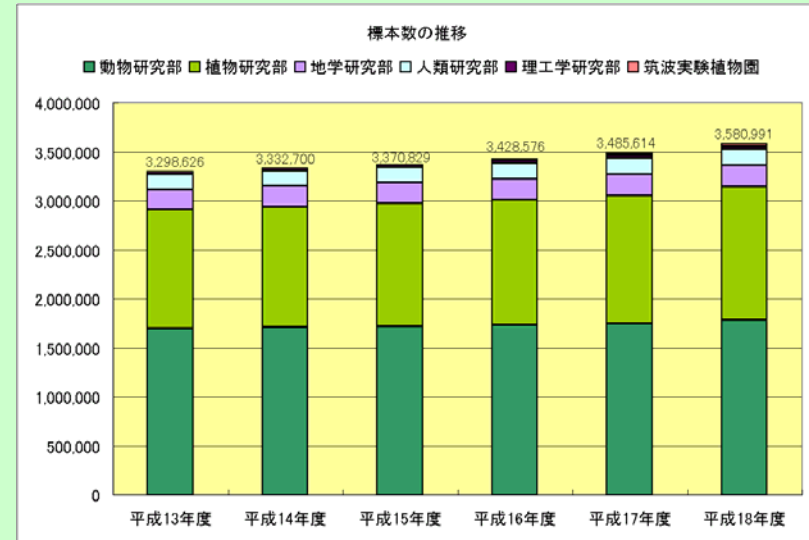
### 標本資料情報の公開増加件数

標本資料に関する情報の電子化・データベース化の推進と公開

中期目標数値 平成 18～22 年度の 5 年間で 15 万件の増

18 年度実績 30,941 件増

18 年度末の公開件数は 924,823 件



### S - Net 自然史標本情報検索システムの参画機関数，公開件数

サイエンスミュージアムネット(S-Net)において，全国の科学系博物館所有の標本資料情報の把握と公開

18 年度末実績 27 博物館，4 大学の参加により約 86 万件の自然史標本情報を公開

### 入館者数

人々に対する科学リテラシーの振興のための入館者数の確保

中期目標数値 平成 18～22 年度の 5 年間で 600 万人

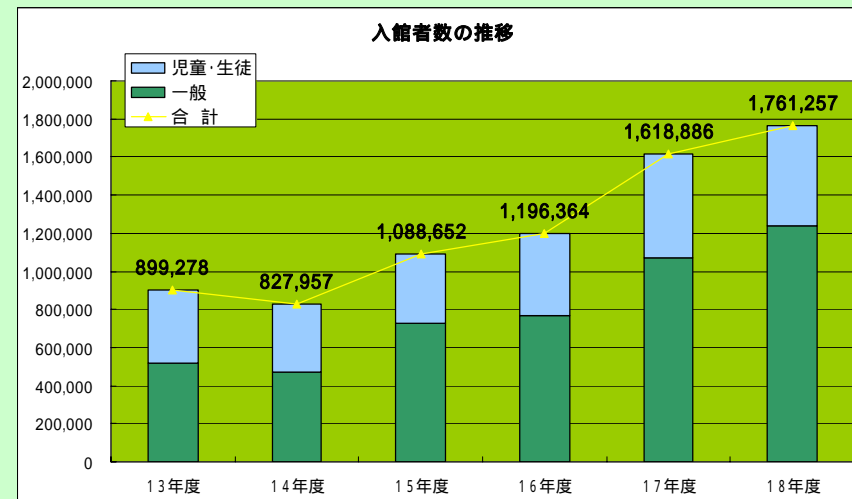
18 年度実績 1,761,257 人

### 特別展実施件数及び日数

18 年度実績 4 回(240 日)

### 企画展実施件数

18 年度実績 22 回実施



## 学習支援活動

(1)高度な専門性を活かした独自性のある事業，(2)学会と連携した事業の展開，(3)研究者等と入館者との直接的な対話の推進を図る事業として，18年度に延 937 日の学習支援活動を実施。

## 体験的な学習支援活動の開発

中期計画数値 年間 10 件

18 年度実績 12 件

## 知の社会還元を担う人材の育成システムの開発・実施

18 年度にサイエンスコミュニケータ養成実践講座を開発・開講 コミュニケーション能力を養うサイエンスコミュニケーション 1 は 24 名，コーディネート能力を養うサイエンスコミュニケーション 2 は 10 名が修了。

## ホームページアクセス件数

中期目標数値 平成 22 年度に年間 200 万件

18 年度実績 1,938,251 件(トップページ)  
総アクセス件数は 314 百万件。

## 他の博物館等の展示のための標本貸出等件数

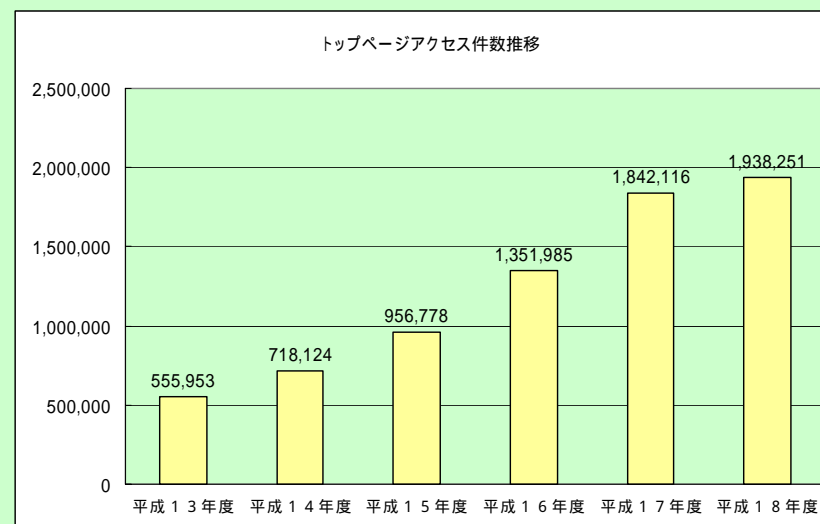
18 年度実績 27 件

## 巡回展 (巡回は全国科学博物館協議会としての活動)

18 年度実績 12 館

## 科博コラボ・ミュージアム(全国各地の博物館等との連携事業)

18 年度実績 5 地区



## イ 現状の外部資源の活用状況

(平成19年度)

委託業務名	委託先名称	委託方法	契約実績	契約年数
国立科学博物館警備業務	株式会社ライジングサンセキュリティーサービス	一般競争契約	91,874,997	複数年契約 (3年)
国立科学博物館上野本館他清掃業務	株式会社裕生	一般競争契約	49,770,000	複数年契約 (3年)
国立科学博物館総合案内・展示施設案内等業務 (総合案内業務, 売札業務, 音声ガイド・ICカードカウンター業務, 展示施設シアター360案内業務等)	株式会社フクシ・エンタープライズ	一般競争契約	28,064,400	単年
国立科学博物館展示維持管理業務	ノムラテクノ株式会社	一般競争契約	24,150,000	単年
国立科学博物館防災設備等保守業務 (防災設備, 昇降機設備, ボイラー設備, 冷凍機等整備, 給排水衛生機器整備, 高圧受変電設備, 構内電話交換機設備, 監視制御設備, 建物設備の運転監視等)	株式会社太平エンジニアリング	一般競争契約	106,050,000	単年
国立科学博物館本館庁舎等機械警備業務	セコム株式会社	随意契約	11,154,780	単年
国立科学博物館新館展示情報システム保守・運用管理業務	パナソニックSSマーケティング株式会社	随意契約	51,975,000	単年
全球型映像システム保守業務	株式会社五藤光学研究所	随意契約	4,870,110	単年



## 官民競争入札等を実施する可能性について及び当該事務・事業を独立行政法人の職員以外は担えないとする特殊事情について

国立科学博物館は、我が国の自然史科学の中核的研究機関及び科学系博物館のナショナルセンターとして、地球と生命の歴史と科学技術の歴史の解明、ナショナルコレクションの体系的な構築と継承、及び人々の科学リテラシーの向上のため、標本資料の収集・保管、調査研究、展示・学習支援活動を一体的・統合的に実施している。

よって、国立科学博物館の展示等の企画・管理・運營業務について、国立科学博物館以外の民間事業者が実施することについては、業務の果たすべき機能が阻害される懸念が大きい。また、施設管理や総合案内等民間事業者で実施可能である部分については、既に適切な民間事業者に業務委託を実施しており、以上のことから当該業務において、官民競争入札等制度を導入する意義は乏しい。

### (1)国立科学博物館の事務・事業に、官民競争入札等制度を導入する可能性について

国立科学博物館は、我が国の自然史科学等の中核的研究機関として、また国立の唯一の総合科学博物館として、調査研究、標本資料の収集・保管、展示・学習支援活動を行い、科学系博物館のナショナルセンターとしての役割を果たしている。

国立科学博物館で行う標本資料の収集・保管やそれに基づく実証的調査研究は、地球や生命の歴史と現在、科学技術の歴史を対象として、長期的・継続的視点に立って推進していくことにより、様々な科学研究の発展や技術革新の基盤となるものである。

展示・学習支援活動の企画・開発・実施は、長年にわたり収集・保管してきた標本資料、標本資料に係る情報、それに基づく研究成果の蓄積、並びに最新の研究成果を、有効かつ適切に反映して行われるものである。

特に、科学技術創造立国、生物多様性保全の重要性が言われている中、国民の科学に対する理解の増進を図るためには、蓄積された標本資料の意味とそれに基づく実証的研究に通じた研究者が、展示・学習支援活動の開発、実施に主体的に関わり、最新の研究成果を迅速かつ正確に国民に発信することが重要である。また、科学系博物館のナショナルセンターとして先導的・モデル的活動を行っていく上でも、研究者が展示・学習支援活動の開発・実施に主体的に関わり、計画的・戦略的に事業を進めることが不可欠である。

これらを実現するために、国立科学博物館では「資料の収集・保管」「調査研究」「展示・学習支援活動」の三者を一体的・統合的に結びつけて事業を実施している。

また、合理的・効率的運営の側面から、展示・学習支援活動等の推進においては、企業、NPO 法人、学会等、社会の様々なセクターと連携・協働を行っており、このような社会の様々なセクターと国立科学博物館の連携は、平素の研究活動を背景に、展示・学習支援活動に関する知見と豊かな経験を持つ職員のノウハウの提供があってはじめて

役割分担が実現できるものである。

以上のように、国立科学博物館の調査研究、資料の収集・保管、展示・学習支援活動について民間に委託することは、長期的・継続的な視点からの取り組み、「資料の収集・保管」「調査研究」「展示・学習支援活動」の三者一体による合理的推進、国内の先導的な博物館としての役割、社会の様々なセクターとの協働を阻害しかねないものであり、これらの活動を民間に委託することは不可能と考える。

## (2) 現在民間委託を行っている部分について

防災設備等保守業務、警備業務、清掃業務、総合案内業務については、すでにそれぞれの業務を専門とする適切な民間事業者へ委託を行い経費の節減を図っているところである。全く性格の異なる業務の包括的な委託は、必ずしも経費節減やサービス向上に繋がらないと考えられる。